

# 現代座レポート No. 74

2018 年 2 月～2018 年 4 月

- ・ N P O 現代座の 20 年～N P O 活動の始まり (1)
- ・ N P O 現代座 活動 20 年の試行錯誤 (2)(3)
- ・ N P O 現代座 2017 年度活動報告 (4)(5)
- ・ N P O 現代座 誰でもできる朗読教室 (6)
- ・ 障がい児放課後預かり バンビーノ/会館日誌 (7)
- ・ お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)



2018 年 5 月 1 日 発行  
(通巻 477 号)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 N P O 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

N P O 現代座の 20 年  
思いがけない活動の始まり  
木村 快

◆山下弘文さんとの出会いから  
現代座が N P O 活動を始めて 20 年が過ぎた。きっかけは次のような事情からだった。

1965 年創立の職業劇団・統一劇場は 18 年目に「ふるさとときやらばん」「劇団希望舞台」が分離独立して、残った部分が「現代座」になった。ほとんどが創立メンバーで家族持ちが多く、創立 33 年目には生活的にも職業的にも全国活動は限界で、1997 年 12 月の総会で解散し、それぞれが家族のために新しい生活を模索することになった。解散後の法的事務や活動記録の整理は木村が残って受け持つことになった。

年が明けて 98 年 1 月、突然「諫早干潟緊急救済本部」代表の山下弘文さんが訪ねて来られた。

「先日、神戸震災を扱った現代座の『絆をつくる町』を拝見して感動しました。私は諫早湾水門閉鎖に反対する活動に取りかかったところですが、多くの人に諫早干潟の危機を理解して貰うために、『絆をつくる町』のような芝居を創ってもらえないでしょうか」と言われる。

諫早湾堤防の閉め切りはテレビや新

間で大々的に報道されていたから、私も関心を持っていたが、劇団の解散は決まっていたし、「劇団メンバーは次の生活の準備にかかっているのでは」と辞退したが、彼はため息をつくばかりである。

「私は多くの方々に『いま水門を閉めてしまおうと取り返しのつかないことになる』と話して歩いてるのですが、言葉では限界があります。あなたたちの芝居を見るとき、言葉では伝えられない、体験そのものが身体の中に沸き起こりました。もう本当にお芝居はやられないのですか」

### ◆『虹の立つ海』

彼の気落ちした姿を見て、「劇団は解散したけど、せめて私が個人としてお手伝いしましょう」と言わざるを得なかった。

彼は戦前の中国生まれで、私と同じ国民学校引揚げ世代だった。戦後世代には通じない苦労話に花が咲き、「私はどうも気がつくくと、いつも損な役回りだね」と笑い合ううちに、たとえ成算がなくても彼の仕事を手伝わなくてはいけないと思った。

私はさっそく諫早湾に面した山下氏



干潟に立つ山下弘文さん

の研究所をたずね、諫早干潟の実態調査に入った。山下氏の危機感とは、単なる漁業問題ではなく、生態系の変化による地球環境の変化だった。

干潟を案内されているとき、魚や貝の死骸が散らばる干潟の彼方に、なぜかうつすらと虹が立っていた。思わず、「虹の立つ海をめざすような芝居になるといいな」と言ってしまった。

「必ずそうしますよ」と山下さんは虹を眺めていた。半年ばかりかけて登場人物を 5 人に絞り、元劇団員の愛田巡也さん、今村純二さんらの協力で、細々と上演を始めてみた。これが思いがけない N P O 活動の始まりで、全国 175 自治体での上演が実現した。

### ◆地球のヒーロー

取材が始まってすぐの 1998 年 4 月、山下氏は世界的な環境保護活動家に贈られるゴールドマン環境賞を受賞した。アメリカの雑誌では環境保護に貢献した「地球のヒーロー 10 人」の 1 人にも選ばれた。残念ながらこれからという 2000 年 7 月に亡くなられた。(享年 76 歳)



赤平市民ミュージカル『虹に向かって』  
戦後は国を支える力だと賞賛された人々が、炭鉱の消滅で散りぢりになっていった。「見知らぬ町で疲れたら帰っておいで。ここは昔のように仲間の街だよ」

地震が起こり、老人と息子夫婦は洞窟に避難するが、洞窟を抜けるとそこは50年後の環境が破壊された世界だった。町は消え失せ、人々は食糧の欠乏と、病いに苦しんでいたが、1人の少女が人々のための薬草を探していた。頑張れ！



『虹の立つ海』



立ち入り禁止の埋め立て工事現場に入り込み、黙って笛を吹く老人がいた。町の人や息子夫婦がなんとか街へ引き戻そうとする日がつづく。

## NPO活動20年・試行錯誤の連続 木村 快

諫早湾からはじまって

◆ 『虹の立つ海』175自治体公演  
1998年～2004年

前述（1頁）の通り、急ごしらえの公演は心配だったが、真つ先に支援を表明してくれた北海道八雲町の青年たちの協力で北海道の活動から始めた。

◆ 赤平ミュージカル『虹に向かって』

2002年 赤平市内3地区 4公演

2003年 世界鉱山会議 1公演

北海道赤平市の高齢者から子どもミュージカルの指導を頼まれる。炭鉱都市として知られた赤平市はエネルギー政策の転換で炭鉱がなくなり、6万の人口は半減。高齢者ばかりの街になりつつあった。

かつて赤平は何度も巡演した街なので2001年から3年間、事務所を赤平市に置き、作曲家の岡田京子さんにも手伝って貰って取り組む。半年間、観客の心が一体化する「劇場」の勉強会を続け、街の歴史を見直すために、子どもたちと炭鉱施設や炭鉱住宅の跡を探検する。

未経験者ばかりで合唱曲をつくり、舞台装置を作り、廃校になった小学校の体育館に集まって稽古をした。若者不在の街で大人と子ども併せて50人の大舞台を赤平3地区で4ステージ上演。2000人の市民が感激を共にした。

この作品は翌2003年にも赤平市で開催された世界鉱山会議で上演され、世界中からやってきた鉱山関係者から炭鉱の文化遺産として賞賛された。

置き去りにされた人々を

◆ 『約束の水』69自治体公演  
2004年～09年

北海道や長野県には戦後引揚者のための緊急開拓地の跡が各地に残っていた。関係者を訪ね歩き、高度経済成長の裏側で生産性の低い開拓村が次々と切り捨てられていく様子を取材して歩いた。

ブラジルから祖母の故郷を訪ねてきた日系人女性が、廃墟のなかで一人暮らしする老人と出会う話としてまとめた。

◆ 『遠い空の下の故郷』

～ハンセン病療養所に生きて～

2004年～継続中。

2001年、熊本地裁でハンセン病違憲訴訟の判決が出た。小泉首相が謝罪するなど、日本近代史から抹殺されていた人々の存在が明らかになった。

医療誌『いつでも元氣』から1年間の連載を頼まれ、熊本・鹿児島療養所での入所者と友達になり、連載記事を書いた。体験者の声を語り継ぎたいと思い、二人の女性の人生を『遠い空の下の故郷』として語り物にまとめ、3人以上の集いで声がかかればどこへでも飛んで行く『小さな心の劇場』を現在も続けている。

『蒼い空・友の呼ぶ声』2011年。



江見俊太郎さん(1999年)



【江見俊太郎】 学徒出身の特攻隊員だったが、飛び立つ数日前に敗戦となる。戦後、東宝映画に入社し、数々の名作に出演。テレビでは『眠狂四郎無頼控』（1957年）で広く知られる。日本俳優連合・芸団協・芸術文化振興連絡会議議長などを歴任。俳優の権利向上・生活向上に尽力された。『蒼い空』は平成11年度厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財作品。

『約束の水』 日系人ミツコの祖母は故郷の「約束の水」と呼ばれる泉を夢見て死んだ。祖母の故郷は廃村になっていたが、ミツコはそこで暮らす1人の老人と泉を探す。泉を見た老人は思い出す。その泉はブラジル移民、満州移民の歴史を語る遺跡だった。



『出会いの街』 自営の零細工場が倒産し、父は蒸発。介護していた祖母も亡くなり、娘はNGOとしてカンボジアへ旅立つ日、街のカフェで偶然父と再会する。



『わすれものはありませんか』 介護タクシー運転手の浦島君は福祉支援を拒否する恩師の芳子先生と再会する。現場から見た福祉問題の現実。(作：武本英之)



『ユーモレスク』小劇場最初の作品。ドボルザークの名曲「ユーモレスク」の流れる舞台。気弱で失敗つづきの娘が、廃業して街を去る靴職人のおじさんとの出逢いで立ち直る。

### 戦争体験者の願いを

- ◆ 『朗読劇・熱い風』2007年8回
- ◆ 1980年代から俳優として、スタッフとして協力してくれた左右田一平さんが病気で倒れた。彼を励ますために、彼の主演で残留日本兵を描いた『熱い風』を朗読劇に再構成。残念ながらこの舞台が左右田一平の最後の舞台となる。
- ◆ 『蒼い空・友の呼ぶ声』

2011〜13年 21公演

1997年に映画俳優として著名な江見俊太郎さんから自らの特攻隊員の体験と反省の劇化を頼まれ、森繁久彌さんも声の出演で協力され、『蒼い空』を制作。「平和とは何か」、自分探しの旅に出る老人のドラマを3人の俳優でボランティア公演を続けておられた。江見さんは現代座の協賛会員になって励ましてくださったが、2003年11月に亡くなられた。江見さんのところざしを継ぎ、『蒼い空・友の呼ぶ声』として再構成、現代座メンバーで巡演。

### 常に劇場の原点を求めて

- ◆ 現代座会館では観客全体が一体的に共感できる小劇場を増設し、小作品も上演。
- ◆ 『ユーモレスク』2005年
- ◆ 『小さなカフェ』2007年
- ◆ 『もくれんのうた』2008年(地下ホール)
- ◆ 『わすれものはありませんか』2008年
- ◆ 『ここは幸せせう番地』2010年

### ◆ 『出会いの街』2013年(地下ホール)

### ブラジルに協同の夢を求めて

◆ ブラジルには大正時代に誕生した日本人のアリアンサ協同組合移住地が現在も存在する。だが、日本政府特有の公文書廃棄によって公的移民史から歴史を抹消された。1994年以来、アリアンサと協同で戦前関係者の聞き取り、外務省資料館からの資料発掘を続け、2013年『共生の大地アリアンサ』を発行できた。

### 地元の歴史を見直す

- ◆ 『小金井小次郎』2010年8公演。
- ◆ 幕末の混乱期、小金井生まれの小次郎は侠客の道を歩み、幕府によって三宅島に流される。小次郎は水不足に泣く三宅島の現実を知り、流罪人と島民の協同を組織し、大水源地を建設していた。
- ◆ 『武蔵野の歌が聞こえる』

2014年、現在39公演

2010年に江戸史見直しのため、地元小金井で「川崎平右衛門プロジェクト」が発足。5年間、武蔵野新田の開発を担った川崎平右衛門の研究をつづけ、思いがけない大舞台として実現した。

その時その時の課題を乗り越えるために無我夢中でやってきたが、まさに試行錯誤の20年である。この先さらにどんな道を歩いて行くことになるのだろうか。

『武蔵野の歌が聞こえる』 宝永大地震と富士山噴火で打ちのめされた時代の農民と、そのリーダー川崎平右衛門を描く。

『熱い風』 病に倒れた左右田一平さん(左から2人目)を囲んで、1990年版『熱い風』を朗読構成劇にリメイク。



## NPO現代座

## 2017年度活動報告

## 財政状況

左の表は東京都に提出した「活動計算書」です。

2017年度は105万3138円の黒字になりました。黒字になった理由は、毎年少しずつ進めてきた会館の修繕や照明機材等の入れ替えを、今年は一年先延ばしにしたためです。

収入では何より会員の皆様の会費と寄付で支えていただきました。約330人の方が寄せてくださった会費と寄付金は177万7千円になり、現代座の基本的な活動が成り立っています。

本当にありがとうございました。

## ◆よく質問される人件費について

地下ホール、談話室、多目的会議室、3F小ホールを運営するのは大変ですが、常駐管理職員を置かず、すべてボランティアとパートタイマーで運営しているため、やっと収支のバランスがとれるようになりました。

## 活動報告

## ①地域劇場づくり支援事業

現代座会館を地域の方々や創造活動をする方々に活用してもらう事業です。

## ◆定例活用

毎週行っているのは「小金井熟年会」の集まり、障がい児の放課後預かり事業「バンビーノ」、通信制大学生支援の「教育文化経営学院」と「教育文庫」です。

毎月一度地域のお年寄りが集まる「緑町ふれあいサロン」が行われているのと、緑町第二町会は役員会や総会にも使っています。

## ◆地下ホールと3F小ホール

ホール公演8団体、3F公演4団体、稽古など11団体でした。

一緒に会館の運営を考えてくれる「希望舞台」をはじめとして、「燐光群」「クロジ」「ふるぎやら」などいくつもの劇団が毎年稽古に使ってくれています。

また津田さんご夫妻の生徒の発表会「リトルコンサート」は今年度も3回行われました。3階の朗読公演とホールでの芝居を交互に続けている「りんどうの会」は今年度も2回の公演と1回の試演会を行いました。

ホールでの公演は今年度は新しい団体が多く、地域で活動している様々な年代

の創造集団が公演の場として活用してくれました。

## ②制作上演事業

## ◆合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』

4年目の公演は「川崎平右衛門没後250年記念事業」の一環として、平右衛門が生まれた府中市の行事として行われました。5月20日、21日の2日間で3ステージの公演でした。

この公演を契機に「川崎平右衛門研究会・顕彰会」が発足し、11月には府中市郷土の森博物館で第1回の研究会が開かれました。

## ◆学童保育支援の上演

東京学芸大学の学童保育「森の子ども教室」では子ども達が地域の歴史を演じる試みが行われ、現代座も協力して子ども達による「へーえもんのものがたり」が上演されました。現代座からは6人の俳優・スタッフで教室を照明・幕を使って本格的な劇場にしあげ、劇場の楽しさを体験して貰いました。

## ◆『NPO現代座・バラエティ劇場』

昨年始めた3階小ホールでの「バラエティ劇場」は今年度は新春の公演として1月12、14日に行われました。

## ③セミナー事業

## ◆『遠い空の下の故郷

〜ハンセン病療養所に生きて〜』

2回の上演が実現しました。小金井市では昨年に引き続き緑中学校の卒業記念講演会。そして長野県では大町市「人権を考える市民の集い」で中学生と市民の方に参加していただきました。

## ◆『SPレコード雑談会』

今年度は木村快と木下美智子が東京にいられなかったため、残念ながら1回しかできませんでした。

## ◆『誰でもできる朗読教室』第4期

長谷川葉月さんが講師の初心者向け朗読教室は、基礎訓練を丁寧にしなが、半年間で発表会までやる12回の講座です。今年度の4期から昼のクラスだけでなく夜のクラスも始めました。発表会は合同で行いました。5期の教室も始まりました。

## ④その他

## ◆現代座会館の整備について

昨年までに地下ホールの照明調光器と照明卓の取替工事、全館配線工事が完了しました。今年度から音響機材や照明器具の整備を進める予定でしたが、予算の関係で来年度以降に先延ばししました。

## 2017年度 活動計算書

2017年3月1日から 2018年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座  
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,533,000
2 受取寄付金		244,000
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	3,866,700	
②制作上演事業収益	5,032,000	
③セミナー事業収益	415,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	3,000	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	9,316,700
5 その他収益		
受取利息	11	
雑収益	138,500	138,511
経常収益 計		11,232,211
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	715,750	
(2) その他経費		
制作・準備費	6,000	
創造・上演費	4,463,053	
交通・通信費	44,587	
資料・印刷費	9,976	
消耗品費	206,027	
会報・HP経費	775,414	
その他経費 計	5,505,057	
事業費 計		6,220,807
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	541,144	
(2) その他経費		
通信運搬費	468,113	
消耗品費	229,630	
OA経費	350,371	
雑費	185,301	
光熱水道費	913,707	
租税公課	70,000	
家賃	1,200,000	
その他経費 計	3,417,122	
管理費 計		3,958,266
経常費用 計		10,179,073
当期正味財産増減額		1,053,138
前期繰越正味財産額		44,218
次期繰越正味財産額		1,097,356

当期において、その他事業は実施していません。

## NPO現代座 誰でもできる朗読教室

講師 長谷川葉月

4月25日(水)に「誰でもできる朗読教室」の5期生発表会が現代座会館3階小ホールでありました。月2回で6ヶ月間の全12回の講座を受講した生徒11人が一人ずつ舞台上がって、それぞれ10分〜15分ほどの朗読を披露しました。発表会のたびに思うことですが、

「会場一杯のお客様の前に、たった一人きりで舞台上に出て行って、照明の当たるなかで、どうしてこんなに落ち着いて堂々と朗読できるのだろう」と、受講生の度胸の良さに感心してしまいます。後で本人に聞くと、緊張して手が震えたとか、胸のドキドキが止まらなかったとか言っていますが、素振りにも見せないところは、皆さん、なかなかの役者だなと思います。さて、私がこの講座を始めたのは約2年半前の2015年10月。講座期間を6ヶ月にするか1年間にするかは迷いましたが、とにかく現代座会館という恵まれた場所があるわけですから、講座の最後に照明付きの朗読発表会をすることだけは当初から決めていました。もともと朗読は人に語るものですし、発表会を経験することは、大きな成長に繋がるからです。

現代座レポートでの告知やチラシの折り込み、体験講座実施のおかげで、定員10名のところを第1期は9名の申し込みがあり、順調なスタートを切りました。第2期と第3期はどちらも定員一杯の10名で有り難い限りでしたが、問題が起きました。時間です。人数が増えると一人ひとりの朗読時間が少なくなってしまうのです。みなさんの声をしっかり聞きたい私にとって10名は少し欲張りな人数でした。そこで、第4期からは定員を8名に減らして、その代わり、同じ内容の夜クラスを開講しました。おかげで時間に追われることはなくなりましたが、相変わらず昼クラスが人気で、6月から始まる第6期も定員に達してキャンセル待ちという状況です。いま現在はクラスを増やすことは考えていませんが、いずれ、新しい枠組みの講座なども作りたいと思っています。

「朗読」には、まず新しい物語と出会う楽しさがあり、そして、単純に、声を出す楽しさがあります。いまや安心して大声を出す機会は少なくなっていますのでストレス発散にもいいかもしれません。第1期からずっと継続受講している人たちによると、毎回の発声訓練がこの教室の魅力の一つなのだそう。でも、読書のときと違って、声に出して読んだ途端に物語の世界に入り込めなくなる自分に戸惑ったり、口が回らないことに唖然としたり、自分の癖に落ち込んだりもします。それでも、何回も繰り返し読んでいくうちに作者の意図や作品の奥深さも理解しはじめ、誰もが自然と第一声から物語の世界を表現できるようになっていくのです。自身の朗読で、聞いている人に感動を与えることができたこれほど嬉しいことはありません。



(後列左より) 石川秀樹、西山かず子、環笑子、木谷道宣、木村サチ子、古明地節子、手塚修  
(前列左より) 井上尚子、高嶋悦代、長谷川葉月(講師)、下向道江、今井治江

## 5期生発表会プログラム 朗読・作品・作者

高嶋悦代	「葉桜と魔笛」	太宰治
下向道江	「ぼうさまの木」	松谷みよ子
木村サチ子	「ぼくもいくさに征くのだけれどー竹内浩三の詩と死ー」	稲泉連
手塚修	「洋食セーヌ軒」	神吉拓郎
古明地節子/木谷道宣/今井治江	「花匂う」	山本周五郎
西山かず子	「愛のサーカス」	『まひるの月を追いかけて』より 恩田陸
環笑子	「恐ろしき四月馬鹿」	横溝正史
石川秀樹	「胡桃のような」	沢木耕太郎
井上尚子	「おぼろ月」	藤沢周平

小井井で朗読に興味があがる人はどれくらいいるのか不安でしたが、最初に隔週水曜日の昼クラスを開講しました。5人も集まれば充分だと思っていました。

## 本当にありがとうございました

バンビーン 世話役代表 馬場 利明



2012年4月から現代座さんの2階をお借りして、バンビーンという名前で、障がい児の放課後預かりをさせていただいています。

今回、原稿の依頼を頂いたのは、現代座さんの利用が終了予定になっているので、思い出など書いてくださいとのお引き受けしました。

実は、2学期から母体である「小金井市手をつなぐ親の会」(知的障がい者の親の会)の事務所移転に伴い、バンビーン活動もそちらで行うことになりました。

まずは、毎週月曜日の午後だけですが、もう6年以上も使わせていただいていることに感謝させていただきます。

2階のトイレを水浸しにして裸で歩き回ったり、炊事場への扉のガラスを割ってしまったりと、いろんなことがありました。

また、利用者が大きな声を出したりすることも多かったですが、現代座に関わっている多くの方々に温かく見守っていただきました(現代座さんに入りされている方は、もっと個性的な方が多いから、ちょっと変わったっていても驚かない?)。

部屋の移り変わりでは、外壁が落ち、いきなりパイプの足場が組まれていたりもしましたが、フロアをクッション張りにしていただいたり、エアコンも新しくなったりと、でも利用料は同じで、大変助かりました。

今年の4月に多くの利用者が通っている小金井特別支援学校の改築も終わり、西国分寺市の仮校舎からようやく小金井市に戻ってきました。

そして、事業者が少なかった障がい児の放課後デイサービス施設も、この6年間のうちに少しずつですが増え、障がい児を取り巻く制度的な環境は随分良くなってきました。

反面、「相模原障がい者施設殺傷事件」が起こるなど、障がい者理解が進んだという実感ももてない現実もあります。

理解ある現代座さんでの活動は、あとわずかにになりました。



卒業生を含

めみんなが、

「ちよつと昭和チックな会館」

を少しでも憶えてくれていたら、私もう

れしいなあ。

そして、現代座会館、現代

座に関わって

いる皆さん。

個人的なみんなを迎えていただき、本当にありがとうございました。

## 現代座会館 2月～4月 活動日記

2月4日「現代座レポート73号」発送作業

20日 森武麿氏、名村優子氏ブラジル資料整理に來訪

22日 薦屋氏「快塾」開催

25日 現代座創造グループ会議

26日 協同総研・相良孝雄氏來訪

4月1日 NPO現代座第17回総会  
毎月第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

### 【現代座ホール】

2月1～18日 りんどうの会「人はなんで生きるか」稽古と公演

3月3日 目黒陽介・ジャグリング撮影

17～25日 ふるきやら「瓶ヶ森の河童」稽古

27～4月10日 劇団希望舞台「釈迦内板唄」稽古

4月11～12日 ふるきやら「稲ムラの火」稽古

28～30日 演劇サークル夢さしの「コメ・コメ・コメ」公演

### 【二階小ホール】

2月17・23日 スタジオ・ポラーノ稽古

3月3・10～18日 BONBON組「表札職人」公演

22～25日 劇団希望舞台「釈迦内板唄」稽古

4月25日 朗読教室5期生発表会

隔水曜日 朗読教室

毎火・金曜日 ヨガ教室

### 【定期使用 一階サロン】

毎日曜日 教育文化経営学院(学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・バンビーン

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad熟年講座

## お 知 ら せ

TEL 042-381-5165  
FAX 042-381-6987「遠い空の下の故郷」  
～ハンセン病療養所に生きて～

日 時：5月19日(土) 14:00～16:00  
 会 場：長野合唱団ホール(長野市鶴賀緑町)  
 参加費：1000円  
 主 催：「遠い空の下の故郷」実行委員会  
 連絡先：常田 080-1052-6127

日 時：6月14日(木) 14:00～15:30  
 会 場：大町第一中学校体育館  
 参加費：無料  
 主 催：大町市「人権を考える市民の集い」  
 連絡先：大町市教育委員会生涯学習課  
 人権教育担当 0261-22-0420 内線 623

「りんどうの会」公演  
『心理試験』 江戸川乱歩原作

日 時：5月25日(金) 19:00  
 26日(土) 15:00 / 19:00  
 27日(日) 15:00  
 会 場：現代座 3F 小ホール  
 参加費：一 般 2500円  
 高校生以下 1500円

予約、お問合せ  
 facebook: <http://www.facebook.com/htheater.rindou>  
 メール: theater.rindou@beach.ocn.ne.jp  
 : sugiyamakikaku@vesta.ocn.ne.jp  
 電話・FAX: 03-6657-7027

アラフォー&アラフィフ  
運動不足さんのためのヨガ 教室

5月19日(土)  
足・脚  
6月16日(土)  
腰痛対策と体幹  
7月21日(土)  
肩甲骨を動かす  
各回 13:00～15:00  
現代座会館3階  
参加費：各 2000円  
各回テーマはありますが、  
毎回全身を動かしますので  
一回から参加できます。  
要予約

## 整形外科ヨガ 教室

毎週火曜日  
14:00～15:00

「椅子に座ってできるヨガ」が「整形外科ヨガ」になりました。  
 『整形外科ヨガ』とは、現役の整形外科医が監修した  
 ヨガです。医療エビデンス(証拠データ)に基づき  
 運動器に効率的、効果的にアプローチするヨガです。  
 参加費は変わらず、1回 1000円です。予約不要

## お申し込み・お問合せ先 YOGA-Life Maker-

お申し込み受付は、各日2日前(木曜日)まで、または定員に達した時点で終了致します。



←申込み、問合せメールフォーム  
 @yoga-lifemaker.comからのメールを  
 受信許可に設定して下さい

Mail : [info@yoga-lifemaker.com](mailto:info@yoga-lifemaker.com)  
 電話 : 050-5319-7071(YOGA-Life Maker-)

## NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)  
 一般会員 3,000円  
 協賛会員 10,000円(1口以上)  
 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座